

事業報告書（指定管理者による自己評価）

1 指定管理施設及び指定管理者の概要

指定管理施設	名 称	グリーンパーク（響灘緑地）・ひびき動物ワールド
	所 在 地	北九州市若松区大字竹並１００６番地ほか
指定管理者 （自己評価者）	名 称	グリーンパーク活性化共同事業体
	所 在 地	北九州市小倉北区砂津二丁目１１番２３号
指定期間		令和７年４月１日～令和１２年３月３１日
事業報告（自己評価）の 対象期間		令和７年４月１日～令和８年３月３１日

2 企画提案事業・自主事業の実施状況（対象：自己評価の対象期間）

企画提案事業	応募時提案 （□にレ点）	実施の有無 （○・×）	備 考 （補足説明等）
園内パンフ・仕様見直し	☑	○	
園内パンフ・拡大サイクリングコース等の追記（JV 独自事業）	☑	○	
カンガルー広場・施設パンフ作成	☑	○	
パンフ、施設チラシ等送付（団体確保）	☑	○	
チラシの配布エリア、配布頻度の検討、花情報等の強化	☑	×	R8～
団体向けHPの作成	☑	○	
ファシリティセールスシート作成（無料施設）	☑	○	
野外ステージ、イベントホール、BBQ利用方策検討	☑	○	
集客施設におけるプロモーション活動	☑	○	
エージェンツセールス	☑	○	
デジタルサイネージ導入・活用	☑	○	

HP・SNSによる駐車場満空情報のリアルタイム更新・電話対応	☑	○	
LINEチャットボット案内	☑	×	R9
供用時間の変更（夏・冬）	☑	○	
夜間入園料の徴収	☑	○	
ゲート・キャッシュレス決済導入	☑	○	
駐車料金精算システムの検討・導入	☑	×	市より整備計画の提示を受け、検討を保留
繁忙期における警察巡回強化	☑	○	
子どもの遊び場へのスタッフ配置	☑	○	
公共交通アクセス強化	☑	×	市バス減便等あり、検討を保留
コンセントの貸し出し（電子レンジ、お湯等）	☑	○	
ミストシャワー設置（ポニー広場等）	☑	○	
AED増設に向けた検証	☑	×	R9
再生可能エネルギー由来の電気の使用・契約	☑	○	
WEBクチコミ等収集・分析・対策立案・実施	☑	○	
苦情の予測と対応策の事前検討	☑	○	
カラーボールやさすまたの導入・訓練	☑	×	R8
グリーンパークサインの定期的な更新（ハートのオブジェ）	☑	○	
犬同伴入園	☑	×	R9（市協議、実証イベント、意向調査は実施済、継続予定）
各種遊具の整備・管理・運営（整備は自主事業）	☑	×	市に整備意向があることを受け、検討保留
木陰の空間づくり（企業協賛募集）	☑	×	R8～R9
花をテーマとしたインフラ整備、展示会等の開催	☑	×	R8～R9
未来のモビリティ体験・展示会（一部は自主事業）	☑	○	
公共交通フェスティバル	☑	○	
公園施設の魅力を活かしたイベント開催	☑	×	R8～

団体・事業者・ボランティア等との意見交換	☑	○	
団体・事業者・ボランティア等との連携・協働によるイベントの開催	☑	○	
観光案内エリアの整備（若松北海岸エリア等のパンフ、ポスター）	☑	○	
地域魅力発信フェスティバル（指定管理事業または自主事業）	☑	○	
バラのお茶会	☑	○	
はじめてのバラ魅力体験ツアーの開催	☑	○	
木陰を活用した各種体験会	☑	×	R9
こいのぼりアート展示イベント	☑	○	
こどもまんなか体験イベント・教室の開催	☑	×	R9～
野菜、多肉植物等新規講座の開催	☑	×	R8～
バラ種数・株数の増加（目標 550 種 3300 株）	☑	○	
イングリッシュガーデンの整備	☑	×	R9
品種ごとのバラの植栽位置を表示するデジタルマップ作成	☑	○	
バラフェア+イベントセールスシートの作成・営業	☑	×	R9
多肉植物・サボテンコーナー、ドライガーデンの整備	☑	○	
体験農園の整備・運営（果樹園）	☑	×	R10（整備済み、結実次第、運営予定）
体験農園の整備・運営（菜園）	☑	○	
花と緑の相談所の衣替え	☑	×	R9
デジタルマップの作成（動物の位置情報）	☑	×	R8
動物施設3施設スタンプラリー	☑	○	
動物施設の教育プログラム・ツアーの一元化及びガイドツアー	☑	×	R9
熱帯生態園における特別展の開催	☑	×	R9
ポニー広場への新規個体導入事業	☑	×	R8～
カンガルーパレード等イベント開催	☑	○	
自主事業	応募時提案 (□にレ点)	実施の有無 (○・×)	備考 (補足説明等)

団体プランの開発（ディノパーク、バモス、おもしろ自転車等）	☑	○	
パッケージツアー等の開発	☑	×	R8～
乳幼児支援サービス	☑	○	
おもしろ自転車・サイクルボートの料金改定、チラシ更新等	☑	○	
立体巨大迷路の整備・運営	☑	○	
ドッグランの整備・運営、ドッグイベントの開催	☑	×	R9 予定（協議、実証イベント、意向調査は実施）
大芝生広場を活用した大型イベントの開催	☑	×	R8～
新たな夜間イベントの開催	☑	×	R8～
自転車イベント等の開催	☑	×	R9～
キャンピングカー&アウトドアギア展示会	☑	○	
デジタル&フィールド探求イベント	☑	○	
こどもまんなか体験講座の開催	☑	×	R8～
親子で体験講座の開催	☑	×	R10～
アーバンスポーツエリアの整備・運営（体験、大会）	☑	×	R10～（BMX体験会は開催済）
ひびきのの森の整備・運営	☑	×	市協議結果により断念
ひびきのの森づくり体験イベント、ボランティア養成講座の開催	☑	×	ひびきのの森の整備断念による
間伐材等による生物多様性の確保、昆虫採集の森・道づくり	☑	×	ひびきのの森の整備断念による（R10 以降別途検討）
体験農園の摘み取り体験会	☑	×	R10～（農園整備済）
ふれあい体験に対応できる新規個体の導入（熱帯生態園）	☑	○	
生息環境を再現した展示（放し飼い）（熱帯生態園）	☑	×	R9～
ポニー広場への新規個体導入事業、新規体験施設整備	☑	×	R8～
夕暮れカンガルー観察会の開催	☑	○	
子ども向けメニュー（カフェ）の開発	☑	○	
balan にちなんだメニューや地元	☑	○	

	食材等を活用した商品開発			
--	--------------	--	--	--

※応募・申請時の提案書や毎年度の事業計画書等に記載の事業を記入してください。

3 自己評価結果

評価項目及び評価のポイント		自己評価
1	施設の設置目的の達成（有効性の向上）に関する取組み	
	(1) 施設の設置目的の達成	評価レベル (0～5)
	① 計画に則って施設の管理運営（指定管理業務）が適切に行われたか。また、施設を最大限活用して、施設の設置目的に沿った成果を得られているか（目標を達成できたか）。 ② 利用促進を目的としている施設の場合、施設の利用者の増加や利便性を高めるための取組みがなされ、その効果があったか。 ③ 複数の施設を一括して管理する場合、施設間の有機的な連携が図られ、その効果が得られているか。 ④ 施設の設置目的に応じた効果的な営業・広報活動がなされ、その効果があったか。	4
	【評価の理由、要因・原因分析】 ・<u>入園者数は要求水準、目標値、前年度実績は未達であるが、野外ステージを利用できれば要求水準は達成した可能性があると考えられる。有料施設である熱帯生態園及びカンガルー広場の入場者数は前年度実績を上回っている。</u> ・<u>以上の数値目標等の達成状況に加え、以下の①～④の取り組み内容を総合的に判断し、自己評価レベルは「4」とした。</u> ①施設の管理運営の適切性（目標達成） ・令和7年度の入園者は450,554人。要求水準（97.9%）、目標値（88.3%）ともに未達、前年度比で約1.6万人減（▲3.6%）となった。GW（混雑を避けた可能性）及び夏季（酷暑、10月まで続く）の減少が主な要因と想定。11月以降に約2.5万人の減少分を回復したが、改修工事（約5か月間）を行っていた野外ステージを利用できれば要求水準を達成した可能性はある（改修工事後の3月に急遽3週連続で野外ステージイベントを開催した結果、入園者数は前年同月比で約1万人増）。 ・前年度比で入園者数が減少したなか、有料施設である熱帯生態園及びひびき動物ワールド（以下、カンガルー広場）の入場者数は前年度を上回った（熱帯生態園約7.2千人増、カンガルー広場約7.8千人増）。各施設における展示、イベント等が奏功した。 ・イベント、講座、飲食・物販については、設置目的等を踏まえ、毎週末、利用者が楽しめるよう取り組んだ。特に募集要項において「若松北海岸の活性化」に貢献することが施設の新たな方向性として位置づけられたことを踏まえ、若松北海岸エリアの事業者等に相談、調整しながら新たなイベント（若松北海岸アウトドアフェア、のりもの次世代フェス、若松北海岸とれたてマーケット等）に取り組んだ。 ・施設管理、清掃、警備については計画どおりに実施した。施設管理については定期点検を実施し、かつ自主点検により建物、機械等の状況を確認し、関係者で共有するなど適切な維持管理に努めた。 ・緑地、熱帯生態園、バラ園の管理については計画どおりに実施した。また、花壇等のデザイン、植物の見せ方に工夫を凝らし、花や緑に親しみを感じられ、かつふれあい	

を体感できる演出に努めた。

- ・ポニー広場及び熱帯生態園の管理については計画どおりに実施した。熱帯生態園では新規の動物を導入し、ポニー広場では新規のイベントにも取り組んだ。
- ・カンガルー広場は今年度より当 JV として新たに管理運営の対象となったが、計画的にカンガルーを管理、繁殖し、適正頭数、日本一の飼育頭数を維持するなど適正な管理運営に努めた。また、適正頭数を持続的に保つため、適正頭数及び無償貸与に関する方針を定め、かつ無償貸与可能な個体リストを整理し、市に提示した（R7.7 方針提示、R8.3 個体リスト提示、R8.4 現在、回答待ち）。その他、新たな体験イベント、物販にも取り組んだ。

②利用者増、利便性向上

- ・酷暑等を踏まえ、夏期は可能な限り気温が低い時間に利用していただくため、開園時間を 19 時まで延長した。延長分を相殺するため開園時間を短縮（夏期は 10 時開園、冬期は 10 時開園・16 時閉園）し、スタッフの働き方改革にもつなげた。
- ・市の施策である「北九州周遊パス」、「KitaQおもてなしキャンペーン」、「福岡市と連携した一人一花運動」、「福岡市が開催する Fukuoka Flower Show」に参加、協力し、認知・集客力向上に努めた。
- ・恒例の夜間イベントの開催日数の増（7 日追加）、水遊びイベントの内容更新に加え、カンガルー広場が管理対象となったことも考慮した動物 3 施設連携イベントの開催、酷暑を考慮したイベント開催時間の変更（夕方、夜間開園時間）などに取り組んだ。また、閑散期の集客のため、12 月最後の週末 2 日間を無料入園日とし、多様なイベント等を組み合わせたクリスマスフェスを初開催した（R6:800 人⇒R7:3,644 人）。
- ・夜間開園、繁忙日の駐車場混雑に対処するため、警備員を適正に配置するとともに、管理事務所スタッフと状況を共有し、利用者へのスムーズな駐車場案内に努めた。園内の路面の起伏や荒れた個所を補修し、利用者の利便性、安全性の確保に努めた。
- ・これまで使用していなかった植物（皇帝ひまわり、ピンクミュリーグラス等）により新たな演出を施したほか、早咲きの桜（10 本）の植栽、新規花壇の整備を行った。また、長期的視点から南国の花木の試験植栽を行った（ストレリチア、ジャガランダ等）。
- ・バラ園では前年比で新たに 50 種、400 株を増やし、バラ園内のバラは約 560 種、3,500 株となった（指定管理 5 カ年目の目標 550 種 3,300 株を達成）。
- ・熱帯生態園では新たに 4 種類の動物を導入し、メディアでも取り上げられた。その結果、えさやり体験者数も増加した。ポニー広場では、10 月にはハロウィンパレード（約 150 名観覧）、1 月にはお正月パレード（約 180 名観覧）といった従来にはないイベントを新規に開催し、来園者の注目を集め、ポニー広場の魅力発信、認知向上に貢献した。
- ・カンガルー広場では、新たにワラビーウォーク、ワラビーのえさやり体験、ポストカード販売を実施した。また、カンガルーの赤ちゃんの名前投票、飼育員のお仕事体験は参加型イベントとして開催し、人気イベントとしてその後も継続することとした。
- ・その他、SDGs・環境に配慮しつつ、利用者増、利便性向上に努めた。
（SDGs・環境配慮）
- ・化石の谷のがちゃがちゃで販売するチョークは、切れ端や余りをイベントで再利用し

- ・ ている。チョークを梱包するカプセルは回収BOXで回収し、清掃・再利用している。
- ・ 市のネイチャーポジティブセンターの準備や広報に協力し、また、同センター11施設による「ネイチャーポジティブスタンプラリー」の開催に協力した。
- ・ ネイチャーポジティブセンターとしての役割も踏まえ自然共生サイト、OECM登録に向け調査・検討した。
- ・ 市が開催した寄せ植え教室、花緑コンクール、チューリップ球根プレゼント等の開催準備に協力し、受け入れた。
- ・ クリスマスフェスの一つのイベントとして開催した「おさがり交換会」はリユースイベントとして注目され、多くのおさがり品を集め、利用者からも好感された（令和8年度は季節ごとの開催決定）。
- ・ 冬場のボイラーの稼働によるばい煙の発生に留意し、機械室の換気に十分配慮し、快適な作業環境を維持した。
- ・ ポニー広場から発生する馬糞や、今年からスタートしたカンガルー広場の糞は処分場で廃棄せず土壌改良材として有効活用している。剪定枝葉等もチップ化してマルチングとして使用している。
- ・ ポニー広場では、ワンヘルスの取り組みの一環として、ミミズコンポスト（馬糞を使ってミミズを飼育し堆肥をつくる装置）を制作するミミズ委員会に馬糞を提供するなど協力・支援した。また、廃材などを利用して矢印看板を作成し、廃棄物減少に努めた。
- ・ 熱帯生態園では、フクロモモンガの寝床であるブランケットとして、使用しなくなったものを集めて活用している。

④営業・広報活動

- ・ 団体利用者増に向け、ホームページの利用案内ページを刷新し、電話受付のみならず同ページからの利用申し込みを可能とした。また、団体向けチラシを更新し、2度目の更新チラシでは巨大立体迷路バモスの団体割引プランを造成、掲載し、案内した。
- ・ 市の公共施設予約システムの運用開始（R8.4～）に向け、市、開発事業者と協議、調整のうえ、必要なシステム設定、情報入力等を実施した。
- ・ 季節ごとに発行するイベントチラシ・同ポスター（年9回を基本）の紙面サイズ、内容を見直し、特に繁忙期はより見やすいチラシに更新した。
- ・ ホームページ、SNSの発信頻度を高めるとともに、モノレール駅の掲示板を活用した広報（みつばちフリマ）に努めた（グリーンパークのインスタグラムのフォロワー数は1,493人増加）。特にカンガルー広場のXフォロワー数を増やすため、グリーンパークのSNSとの連携を強化した（カンガルー広場のXのフォロワー数は746人増加）。
- ・ 定植している花木、花の植え替えなど季節の見頃等は「花情報」としてホームページに掲載している。
- ・ 園内で開催しているイベント、見ごろの花、遊具など園内放送を活用して、積極的に利用者へ情報提供した。
- ・ 積極的なプレスリリースに努め、年間121件のプレスを発出（目標数120件を達成）し、多くのメディア等の取材を受けた。
- ・ 都市緑化センター内で熱帯生態園、カンガルー広場、ポニー広場の動画を制作、放映

し、各施設への誘客につなげた。

- ・利用者からの要請等も踏まえ、熱帯生態園、ポニー広場、カンガルー広場の動物の死亡、移動、新規導入等に関する実態をホームページで公開した。
- ・アグリズムカフェでは、東京ガールズコレクション in 北九州のバックヤードケータリングサービスを担当した際にグリーンパークの広報を行った。

(単位：人)

【利用者数】	R6 年度 (更新前)	R7 年度 (1年目)	R8 年度 (2年目)	R9 年度 (3年目)	R10 年度 (4年目)	R11 年度 (5年目)
要求水準	360,000	460,000	460,000	460,000	460,000	460,000
目標値	500,000	510,000	520,000	530,000	540,000	550,000
実績	467,166	450,554	—	—	—	—

※ ・・・評価対象年度

(2) 利用者の満足度

評価レベル
(0～5)

- | | |
|--|---|
| ① 利用者アンケート等の結果、施設利用者の満足が得られていると言えるか。 | 5 |
| ② 利用者の意見を把握し、それらを反映させる取組みがなされたか。 | |
| ③ 利用者からの苦情に対する対応が十分に行われたか。 | |
| ④ 利用者への情報提供が十分になされたか。 | |
| ⑤ その他サービスの質を維持・向上するための具体的な取組みがなされ、その効果があったか。 | |

【評価の理由、要因・原因分析】

- ・公園全体の満足度は95%を超えていること、以下の①～⑤の取り組みの内容を総合的に判断し、自評価レベルは「5」とした。

①利用者満足

- ・利用者アンケートによる公園全体の満足度は96.3%（非常に満足、満足の全体に占める割合）と高い（ただし、目標値98%は未達）。
- ・個別に満足度をみると、植栽は花壇、緑、樹木、熱帯生態園いずれも95%以上、動物は熱帯生態園、ポニー広場、カンガルー広場いずれも94%以上、接客は態度・言葉遣い、説明いずれも97%以上、その他サイクリング、おもしろ自転車、サイクルポートいずれも94%以上である。
- ・施設については施設清掃、設備管理は91%以上である。しかし、トイレ清掃のみ87%と90%を下回ったが、前年と比較すると改善しており、専用のレンタル芳香剤やおむつ回収BOXの設置など取り組みの成果が表れている。

②利用者意見把握・反映

- ・従来どおり利用者アンケート調査を実施し、その結果は定例会議において関係者で共有し、対策等に活用している。調査方法は従来の直接配布に加えて、都市緑化センター等に調査票を置き、利用者がいつでも回答できるようにした。
- ・太陽の丘の研ぎ出しすべり台の安全利用に関してWEBアンケートを実施し、利用指

導、利用ルール等に関して得られた意見は今後の対策に活かすものとし、また、週末ごとに市に報告している。

- ・都市緑化センターのトイレ、授乳室、おむつ販売等の案内表示を強化した。相対的に満足度が低いトイレについてはアンケート調査を実施した。その結果も踏まえ、トイレ内ゴミ箱にレンタル芳香剤、従来品と異なるおむつ回収BOXを設置した。
- ・経年劣化したテーブル、ベンチ、手すり、ベビーベッドは塗装等により利用者の快適性向上に努めた。
- ・熱帯生態園のカピバラの名前募集、バラ園の枝替わり品種の名称募集及びバラの人気投票、カンガルーの赤ちゃんの名前投票、野外ステージで観覧したいタレント募集等を実施し、結果はホームページ等で公表した。
- ・犬同伴入園やドッグラン整備の実現に向け、わんわん運動会開催時等にアンケート調査を実施し、その結果も踏まえ実施方針を見直した（継続的に実証イベントを開催）。
- ・利用者意見を踏まえ、エボシカメレオン、エリマキトカゲを導入するとともに、エボシカメレオンはふれあいイベントに活用している。

③利用者苦情・対応

- ・利用者からの苦情等は管理事務所で集約整理し、適時あるいは定例会議にてスタッフで共有し、対応している。また、月報等で市に報告している。
- ・ステージイベント時の席取りに関する意見等を踏まえ、事前の問合せやイベント開催当日等では観覧者へ丁寧に説明し、理解を得ることに努めた。駐車場周辺の渋滞に関する意見等については、駐車場の位置、混雑状況等をチラシやHPで情報提供した。
- ・道路路面に対する苦情については即時に補修したうえで、類似箇所の調査、メンテナンスを行った。

④利用者への情報提供

- ・園内の各種情報は、公式ホームページ・SNS（公園、各施設のアカウントあり）、イベントチラシ・ポスター、園内ガイド&マップ、施設別チラシ、市政だより、プレスリリースに加え、園内放送、各所音声案内、デジタルサイネージ、看板・POP等により適時、的確に実施している。
- ・プレスリリースによってメディア等から多数の取材等を受けており、テレビ、新聞、雑誌、WEBメディアなど広く露出につながっている。
- ・怪我事案を受け、子どもの遊び場の遊具等を対象に、対象年齢、利用ルール等をわかりやすく掲示し、安全利用に努めている。
- ・施設改修等に伴う使用中止時等は「利用制限案内」を、ハチ、サル、セアカゴケグモ、あるいは不審者等を確認した場合は「注意喚起案内」等を即時、掲示している。

⑤サービスの質の向上

- ・バラフェア期間の園内の高齢者の足として（将来的な園内バス運行も視野に）、EVバス乗車イベントを開催した（次世代のりものフェスとして、若松区の事業者と共催）。
- ・恒例のキッチンカー等による食のイベントでは、新しいテーマを設定し、サービス向上に努めた（世界のご当地グルメフェス、やきそば選手権、町中華フェス）。
- ・アグリズムカフェでは、こども目線からお子様ランチプレート、手づくりスイーツを販売・充実し、バラフェア期間はバラゼリー、オリジナルブレンドコーヒーを使用したビーンズチョコを開発し、販売した。カフェ店舗内では、木目調のショーケースを

- 新たに設置し、あわせて落ちついたソファカバーへの変更、ドライフラワーを用いた壁の装飾など質の向上に努めた。
- ・野外ステージの改修工事予定を踏まえ 10 月開催のステージイベントを前倒し開催（歌って踊ってハッピーショー）。また、当初 3 月に完了予定の工事が 2 月中旬に完了したため、急遽、3 月に 3 週連続キャラクターショーを企画、開催し、集客に努めた。
 - ・閉園後は化石の谷のチョークによる落書きを散水により消去し、いつでもまっさらな黒板に落書き遊びができるよう配慮した。
 - ・腐食、損壊した看板、フェンス等は適時、復旧するとともに、未然に防止するために各所点検し、必要な個所は修繕対応した（じゃぶじゃぶ池のタイル、取り壊し後に残った鉄柱、手すりのぐらつき、道路の陥没等）。
 - ・水遊びイベント時のじゃぶじゃぶ池の水温上昇に対応するため、利用者の休憩時間に水の入替え作業を実施した。
 - ・ポニー広場、熱帯生態園ともに、夏季の利用者サービスの一環として馬場や生態園内にミストや扇風機を設置した。
 - ・ポニー広場では、乗馬だけではなく、乗馬後に記念撮影の時間を設けることで、利用者の満足度の向上に努めた。また、午年にちなんで毎月イベントを開催した。初午の日（2/1）には、オリジナル制作した顔はめパネルをポニー広場内に設置した。
 - ・熱帯生態園のコツメカワウソのえさやり体験では、すぐに手をふけるようウェットティッシュを常備し、サービスの質の向上に努めた。
 - ・カンガルー広場では、利用者の疑問に答えたり、興味・関心を深めたりできるよう積極的にガイドを行った。また、カンガルー広場に暮らす 89 頭のカンガルーの顔写真を使用した顔はめパネルを制作し、カンガルー広場内に設置した（パネル中のくりぬいた部分に顔を入れて、89 頭のカンガルーと一緒に写真撮影ができる）。

■総合的な満足度

【満足度】	R6 年度 (更新前)	R7 年度 (1 年目)	R8 年度 (2 年目)	R9 年度 (3 年目)	R10 年度 (4 年目)	R11 年度 (5 年目)
目標値	98.0%	98.0%	98.0%	98.0%	98.0%	98.0%
実績	97.2%	96.3%	—	—	—	—
有効回答数	1,251 人	1,292 人				

※ ・・・評価対象年度

2 効率性の向上等に関する取組み

(1) 経費の低減等

- ① 施設の管理運営（指定管理業務）に関し、経費を効率的に低減するための十分な取組みがなされ、その効果があったか。
- ② 清掃、警備、設備の保守点検などの業務について指定管理者から再委託が行われた場合、それらが適切な水準で行われ、経費が最小限となるよう工夫がなされたか。
- ③ 経費の効果的・効率的な執行がなされたか。

評価レベル
(0～5)

4

[評価の理由、要因・原因分析]

- ・響灘緑地は計画値に対して▲5.1%、カンガルー広場は▲4.8%、合計では 5.1%と、5%以上の総事業費削減率を達成した。
- ・上記の計画値達成状況に加え、以下の取り組み内容をも踏まえ、自己評価レベルは「4」とした。

①効率的な経費削減

- ・業務課と企画広報課を統合し、マルチタスク化により経費削減に努めた。
- ・従来の紙によるアンケート調査票に加え、WEBによる調査方法を導入することで、コスト低減を図った（利用者の記入のしやすさも考慮した）。
- ・イベント・講座等に関する予算管理を徹底し、効果的な予算執行に努めた。残予算は新規イベントの開催に充当した。
- ・施設・設備等の修繕については、内製化の対応が可能なスタッフを採用・配置したうえで、内製化し、経費を節減した。損傷・廃棄を予定していた道具類のうち再生できる道具は修理し、再利用している。
- ・カンガルー広場の飼育管理で発生するカンガルーの糞を利用し、バックヤードで堆肥づくりを行い、季節ごとの植替え時の土壌改良材として使用している。
- ・ポニー広場ではヤギ小屋や馬房、広場などの修繕・整備を内製化し、経費を低減した。熱帯生態園では生体飼料料金の比較検討、実店舗調達飼料の厳選などにより経費を低減した。

②再委託費の最小限化

- ・イベントは企画から準備・設営、運営、撤収は原則、内製化している。広報のうちチラシ・ポスターは原稿作成・校正は内製化しているが、デザイン、印刷、発送のみ外部リソースを活用している。SNSはすべて内製化、HPはサーバーメンテナンスのみ外部リソースを活用している。
- ・ステージイベント等のMCを内製化、コスト低減を図っている。
- ・再委託料は労務費や材料費が高騰するなか、委託業者と都度交渉し、適正化・最小限化することに努めた。
- ・植物管理は原則内製化しているが、緑地管理については広大な面積を同時期に施工が必要となる場合のみ一部再委託としている。

③経費の効果的・効率的執行

- ・天候、イベント等を考慮しゲートスタッフの人数を適宜調整し、効率的な運営に努めた（利用者満足度が低下しないよう留意）。
- ・ピーク電力を監視するデマンド装置を設置し、使用電力量を把握し、かつサービス水準の確保を前提に電力量をコントロールしている。
- ・利用者の安全を第一に担保する観点から施設・設備の原状復旧に努めた（突発的不具合は施設・設備の特性等から原因究明、代案検討に時間を要する）。
- ・今年の夏も猛暑続きであったため、植物への灌水作業は少ない人員で効率よく作業が行えるよう作業人員と灌水範囲・順序を時間単位で入念に計画して実施した。

■響灘緑地（指定管理業務）

（単位：千円）

【支 出】		R6 年度 (更新前)	R7 年度 (1 年目)	R8 年度 (2 年目)	R9 年度 (3 年目)	R10 年度 (4 年目)	R11 年度 (5 年目)
事業費	計画	82,500	96,468	98,078	99,671	101,948	102,845
	実績	109,904	95,522	—	—	—	—
人件費	計画	240,000	261,877	266,194	269,951	272,587	279,320
	実績	237,653	251,240	—	—	—	—
施設維持 管理費	計画	83,000	93,500	94,600	93,500	93,500	94,600
	実績	29,701	88,107	—	—	—	—
その他管 理運営費	計画	28,000	24,145	23,947	23,749	23,562	23,936
	実績	52,316	16,822	—	—	—	—
一般管理 費等	計画	0	0	0	0	0	0
	実績	0	0				
計	計画	433,500	475,990	482,819	486,871	491,597	500,701
	実績	429,574	451,691	—	—	—	—

・響灘緑地の総事業費は計画値に対して 24,299 千円減（計画値の 94.9%）、前年度実績値に対して 22,117 千円増（前年度実績値の 105.1%）となった。

・物価高騰の影響があるなか経費節減に努め、事業費は計画値内に抑えた。

(単位：千円)

【うち修繕費】	R6 年度 (更新前)	R7 年度 (1 年目)	R8 年度 (2 年目)	R9 年度 (3 年目)	R10 年度 (4 年目)	R11 年度 (5 年目)
計画	—	5,893	5,893	5,893	5,893	5,893
実績	—	4,863	—	—	—	—

※ ・・・評価対象年度

■ひびき動物ワールド（指定管理業務）

(単位：千円)

【支 出】		R6 年度 (更新前)	R7 年度 (1 年目)	R8 年度 (2 年目)	R9 年度 (3 年目)	R10 年度 (4 年目)	R11 年度 (5 年目)
事業費	計画	—	9,245	8,992	8,746	8,490	8,230
	実績	—	978	—	—	—	—
人件費	計画	—	34,444	35,087	35,722	36,384	37,059
	実績	—	36,204	—	—	—	—
施設維持 管理費	計画	—	13,739	13,739	13,739	13,739	13,739
	実績	—	18,133	—	—	—	—
その他管	計画	—	1,243	1,243	1,243	1,243	1,243

理運営費	実績	—	563	—	—	—	—
一般管理費等	計画	—	0	0	0	0	0
	実績	—	0	—	—	—	—
計	計画	—	58,671	59,061	59,450	59,856	60,271
	実績	—	55,878	—	—	—	—

- ・カンガルー広場の総事業費は計画値に対して 2,793 千円減（計画値の 95.2%）となった。
- ・施設の一体的、効率的な運営に努め、事業費は計画内に抑えた。

(単位：千円)

【うち修繕費】	R6 年度 (更新前)	R7 年度 (1 年目)	R8 年度 (2 年目)	R9 年度 (3 年目)	R10 年度 (4 年目)	R11 年度 (5 年目)
計画	—	1,796	1,796	1,796	1,796	1,796
実績	—	821	—	—	—	—

※ ・・・評価対象年度

(2) 収入の増加

評価レベル
(0～5)

- ① 収入を増加するための具体的な取組みがなされ、その効果があったか。
- ② 使用料（利用料金）収入以外に、自主事業による収入や、企業などの外部からの収入（例：協賛金など）を獲得できているか。
- ③ 自主事業による収益を活用した施設の魅力向上などの投資や、サービス向上などの指定管理業務や市への収益還元の取組みがなされたか。

4

【評価の理由、要因・原因分析】

- ・響灘緑地、カンガルー広場ともに、利用料金収入、自主事業収入は計画値を下回ったが、響灘緑地は総収入（利用＋自主）が自主事業の増収により前年度実績を大きく上回った（響灘緑地単独で 113.7%増）。
- ・上記の計画値等達成状況に加え、自主事業から指定管理業務への還元、下記の取り組み内容を総合的に判断し、自己評価レベルは「4」とした。

①収入増

- ・春のみに開催していたナイトローズガーデンを秋にも開始した。また、シャボン玉ショーやナイトローズガーデンなど夜間イベント開催に伴う夜間開園時は入園料を徴収した（500 円/人、但し中学生以下は無料）。
- ・運営コスト等を考慮し、おもしろサイクルランドの料金を値上げした（R7.4.1～）。
- ・なぞときラリー、がちゃがちゃ、バッテリーカー（場所を追加）、午年にちなんだグリーンパークオリジナル「お午みくじ」といった低コストで収入を得られる取り組みを充実した。
- ・バラフェア開催時のバラ売店以外の空き期間をグリーンパークマーケットや世界のカブクワ大集合イベントとして利用し、商品・体験メニューなどサービスを充実した。
- ・自主事業により巨大立体迷路事業を企画、必要な協議、手続きを実施したうえで整備

- (当JVによる投資)し、11/22に運営を開始した。自主事業収入増に大きく貢献。
- ・熱帯生態園では新たに生体(カピバラ、エボシカメレオン、エリマキトカゲ、フクロモモンガ)を導入したこと、えさやりタイムを設定したことで、えさやり体験者数や入場者数が増加し、収入増につながった。
 - ・カンガルー広場では、ひびきまるわかりツアーの料金体系を4~20名の1組1,000円から1人300円に変更したこと、繁忙期にひびきまるわかりツアーを増枠したことで、収入増につながった。また、新規のワラビーのエサやり体験は、繁忙期は毎回完売する好評イベントとなり、新たな収入源となっている(雌群でもえさやり体験を実施している)。

■響灘緑地

(単位：千円)

【収 入】		R6 年度 (更新前)	R7 年度 (1年目)	R8 年度 (2年目)	R9 年度 (3年目)	R10 年度 (4年目)	R11 年度 (5年目)
利用料金 収入	計画	96,000	101,960	104,660	107,460	110,060	112,970
	実績	94,298	94,286	—	—	—	—
指定管理 料収入	計画	323,472	347,100	350,800	351,600	353,100	359,000
	実績	323,472	346,070	—	—	—	—
自主事業 収益還元	計画	14,028	26,930	27,359	27,811	28,437	28,731
	実績	11,804	21,607	—	—	—	—
計	計画	495,500	475,990	482,819	486,871	491,597	500,701
	実績	492,031	461,963	—	—	—	—

- ・響灘緑地の利用料金収入は計画値に対して7,674千円減(計画値の92.5%)、前年度実績値に対して12千円減(前年度実績値の99.9%)となった。
 - ・響灘緑地の自主事業収入は計画値に対して43,880千円減(計画値の65.7%)、前年度実績値に対して21,438千円増(前年度実績値の134.3%)となった。
 - ・利用料金収入、自主事業収入ともに計画値を下回ったが、利用料金収入は入園者数減のなか前年度実績を維持し、自主事業収入は夜間入園料や巨大立体迷路の収入により前年度実績に対して増収となった。
 - ・自主事業の利益額は22,586千円で、うち21,607千円を指定管理業務へ充当した(提案書に記載した還元率を適用)。
- ※還元率：有料イベント事業及び自販機業は100%、飲食物販事業は72.4%

<指定管理業務への収益還元の状況>

(単位：千円)

【実績】	R6 年度 (更新前)	R7 年度 (1年目)	R8 年度 (2年目)	R9 年度 (3年目)	R10 年度 (4年目)	R11 年度 (5年目)
利益額	11,804	22,586				

還元額	11,804	21,607				
還元率	100.0%	95.7%	—	—	—	—

※ ・・・評価対象年度

<自主事業収入の状況>

(単位：千円)

【収 入】		R6 年度 (更新前)	R7 年度 (1 年目)	R8 年度 (2 年目)	R9 年度 (3 年目)	R10 年度 (4 年目)	R11 年度 (5 年目)
自主事業 収入	計画	62,000	127,775	131,074	135,075	139,435	143,214
	実績	62,457	83,895				

※自主事業収入：有料イベント事業、飲食物販事業、自販機事業の計

■カンガルー広場

(単位：千円)

【収 入】		R6 年度 (更新前)	R7 年度 (1 年目)	R8 年度 (2 年目)	R9 年度 (3 年目)	R10 年度 (4 年目)	R11 年度 (5 年目)
利用料金 収入	計画	—	11,370	11,690	12,000	12,320	12,640
	実績	—	10,349	—	—	—	—
指定管理 料収入	計画	—	46,700	46,700	46,700	46,700	46,700
	実績	—	45,752	—	—	—	—
自主事業 収益還元	計画	—	601	671	750	836	931
	実績	—	164	—	—	—	—
計	計画	—	58,671	59,061	59,450	59,856	60,271
	実績	—	56,265	—	—	—	—

- ・カンガルー広場の利用料金収入は計画値に対して 1,021 千円減（計画値の 91.0%）、自主事業収入は計画値に対して 924 千円減（計画値の 41.5%）となった。
- ・自主事業の利益額は 164 千円で、全額を指定管理業務へ充当した（提案書に記載した還元率を適用）。

※還元率：カンガルー広場は 100%

<指定管理業務への収益還元の状況>

(単位：千円)

【実績】	R6 年度 (更新前)	R7 年度 (1 年目)	R8 年度 (2 年目)	R9 年度 (3 年目)	R10 年度 (4 年目)	R11 年度 (5 年目)
利益額	—	164				
還元額	—	164				
還元率	%	100.0%	—	—	—	—

※ ・・・評価対象年度

＜自主事業収入の状況＞							(単位：千円)
【収 入】		R6 年度 (更新前)	R7 年度 (1 年目)	R8 年度 (2 年目)	R9 年度 (3 年目)	R10 年度 (4 年目)	R11 年度 (5 年目)
自主事業 収入	計画		1,580	1,738	1,912	2,104	2,315
	実績		656				

※自主事業収入：有料イベント事業、飲食物販事業、自販機事業の計

3 公の施設に相応しい適正な管理運営に関する取組み		
(1) 施設の管理運営（指定管理業務）の実施状況		評価レベル (0～5)
① 施設の管理運営（指定管理業務）にあたる人員の配置が合理的であったか。		5
② 職員の資質・能力向上を図る取組みがなされたか（管理コストの水準、研修内容など）。		
③ 地域や関係団体等との連携や協働が図られたか。		
[評価の理由、要因・原因分析]		
・通常に管理運営業務に加え、指定管理期間の初年度として特に地域や関係団体等の連携や協働に積極的に取り組んだことを総合的に判断し、自己評価レベルは「5」とした。		
①人員配置の合理性		
・業務企画課と企画広報課を統合し、正規スタッフのマルチタスク化を推進した。		
・天候、来園者見込などに応じてアルバイト等人員を適正に配置（ゲート、サイクリングターミナル等各施設等）。		
・市の要請を受け、2 月以降の休日には太陽の丘の研ぎ出しすべり台に利用指導のためのスタッフを配置した。		
・施設・設備等の修繕を内製化するため、その対応が可能なスタッフを採用・配置した。		
・ポニー広場、熱帯生態園、カンガルー広場では、閑散期と繁忙期、休園日、施設間応援等を考慮して人員配置を適正化した。		
・その他、高齢者・障害者の雇用促進、スタッフの労働環境向上について以下に取り組んだ。		
(高齢者・障害者・市民の雇用促進)		
・スタッフは年齢、障害の有無による制限は設けずに募集・採用（60～80 歳のスタッフが 20 名以上在籍）。特にサイクリングターミナル、ゲートのスタッフを中心に高齢者雇用を継続している。年齢上限については柔軟に対応し、高齢者を採用した。		
・その他、施設、植物、動物管理においても、未経験者であっても高齢者、障害者を積極的に採用、雇用している。		
・アルバイトを含め多くの市民の雇用を継続している。また、雇用決定の際は市民を優先することに留意している。		
(労働環境の向上)		
・季節と入園者数の関係を考慮し、供用時間の変更を申請、運用した（夏の時短・延長		

開園、冬の時短)。

- ・ 太陽の丘（研ぎ出しすべり台）における利用指導等は、暑さ、寒さ、強風等の過酷な気象・労働条件を考慮し、短時間交代制のシフトを組み、スタッフを配置した。また、熱中症対策として、水遊びの運営現場にスタッフ用の日よけテントを設置した。
- ・ スタッフのライフワークバランスを把握、考慮し、労働時間、休日数、急な欠勤等に柔軟に対応した。
- ・ 快適性の高いスタッフユニフォームに更新した。
- ・ 施設や植物の維持管理スタッフに対して、熱中症予防のため十分な休憩、水分補給を促したほか、飲み物、塩飴、ネッククール、扇風機付きベストを準備した。また、休憩室のエアコン整備など熱中症対策を万全に行った。
- ・ 寒い冬場の悪天候時の作業は極力避けるようにし、予報にあわせてシフト調整を行いながら、スタッフの体調管理に留意している。
- ・ ポニー広場ではフルタイムだけではなく、半日出勤などにも柔軟に対応した。カンガルー広場でもフルタイムだけではなく、半日出勤など柔軟に対応しているほか、スタッフは管理職と月に一度面談を行い、意見交換をしている。

②職員の資質・能力向上

- ・ 水遊びイベントに際し、従事スタッフを対象に普通救命講習（AED 含む）を開催した。
- ・ 安全運転管理者を受講し、秋の交通安全運動等を周知、啓発した。防火管理者講習を受講し、必要な手続き等を行った。
- ・ 全スタッフを対象とした防火訓練及び交通安全講習、業務企画課スタッフ及びゲートスタッフを対象としたゲート研修を実施した。
- ・ 市が主催する安全管理マネジメント講話に関係スタッフ（6 名）が参加し、会議にて情報を共有した。
- ・ アグリズムカフェ等の厨房に入る飲食スタッフは年 3 回の検便を実施するとともに、年 1 回の安全衛生講習を実施している。
- ・ 代表企業の社内プロジェクトに参画し、社内他部署や大学とも連携し、ネイチャーポイント等に関する知見等を得た。
- ・ 効果的・効率的に清掃を実施するための資料をスタッフに配布、共有し、清掃の質の向上を図った。
- ・ 植物管理刈払機やチェーンソー、小型車両系建設機械などの取り扱い必要な資格の取得講座等を希望スタッフに積極的に受講させたほか、効率的な作業方法や剪定技術について常に能力向上に向けた教育を行っている。
- ・ ポニー広場では動物取扱業の資格取得を推奨し、推進した。カンガルー広場では安全かつ迅速に動物の捕獲を行えるよう訓練を行い、スタッフのスキル向上に努めた。

③地域・関係団体連携・協議

- ・ 小学生を対象としたふれあい教室を開催し、熱帯生態園、ポニー広場、カンガルー広場でふれあい体験・交流を実施した。
- ・ 若松北海岸地区連携イベント企画部会の一員として「若松北海岸いいね発見スタンプラリー」（10/18～11/30）の検討・準備に参加し、広報を含め開催を支援した。
- ・ 若松北海岸PRブースを都市緑化センター内に設置し、チラシ・ポスターを掲示した。
- ・ シーズンイベントチラシに「若松ぐるっと周遊情報」、「若松北海岸オススメスポット」

を掲載した。

- ・若松北海岸エリアの事業者と連携し、「農漁花フェス」、「若松北海岸アウトドアフェア」、「のりもの次世代フェス」、「若松北海岸とれたてマーケット」、「はたらくくま大集合」を企画し、開催した。また、若松区内・市内の団体、組合、企業、個人等と連携、協力し、展示イベントや体験イベント、恒例のサマースクール（平日限定）、子どもまつりなどを開催した。
- ・新春開運なぞときラリーでは、若松北海岸エリアの事業者（9 事業者）に協力を要請し、参加景品を準備し、参加者に抽選で提供した。
- ・若松を舞台とした若松出身の俳優による映画「DANNY」のロケハンに協力、協賛金を拠出した。撮影は10月の休園日に実施され、撮影スタッフ等をサポートした。
- ・若松商工会議所の募金活動（募金箱の設置）に協力した（くきのうみ花火大会、若松みなと祭り）。
- ・九州産業大学と連携し、熱帯生態園を舞台としたクイズラリーイベントを開催した。また、梅光学院大学の学生の研修を受け入れ、学生、大学と連携し、「ネイチャースタンプラリー」を開催した。
- ・アグリズムカフェ等では、地元農家と連携して地場産品や加工品を販売するとともに、地元高校生が開発したカレーを販売した。また、春、秋のバラフェア開催時のバラ売店では、地元のハンドメイド作家の委託販売を開始した。市主催の美食産業創造塾へ参加・協賛し、地域企業と交流した。
- ・白野江植物公園でのバラフェアの広報展示や、北九州空港でのバラフェア広報展示を継続実施した。また、次年度の実施に向けて、時期、内容について調整、依頼した。白野江植物公園とは、市内の類似施設として、常に植物管理に関する意見交換や情報交換を行っている。また、アサギマダラスタンプラリーを通じて、毎年準備段階から白野江植物公園をはじめ同種施設との意見・情報交換など交流を行っている。
- ・農協と連携し、季節ごとに北九州の環境や気象、当園の土壌などに適した花の環境、品種の選定を行っている。
- ・ポニー広場では、ワンヘルスの取り組みの一環として、ミミズコンポスト（馬糞を使ってミミズを飼育し堆肥をつくる装置）を制作する「ミミズ委員会」に馬糞を提供するなど協力・支援した。また、市子ども家庭局と連携し、小学生ボランティア体験（飼育体験）を行った（3月24日、25日の2日間）。
- ・カンガルー広場では、近隣の大型商業施設や農家の廃棄野菜を譲り受け、飼料として利用（廃棄作物の減少、コストの削減に寄与）しているほか、地元企業の堆肥づくり協力するため、糞や残餌の買取りをしてもらっている。また、カンガルー広場では、九州女子大学フィールドワーク（動物とのふれあいが子どもたちにどのような影響を与えるのか）に協力している。

（2）平等利用、安全対策、危機管理体制など

評価レベル
（0～5）

① 施設の利用者の個人情報保護のための対策が適切に実施されているか。

② 利用者を限定しない施設の場合、利用者が平等に利用できるよう配慮されていたか。

5

③ 利用者が限定される施設の場合、利用者の選定が公平で適切に行われていたか。	
④ 施設の管理運営（指定管理業務）に係る収支の内容に不適切な点はないか。	
⑤ 日常の事故防止などの安全対策が適切に実施されていたか。	
⑥ 防犯、防災対策などの危機管理体制が適切であったか。	
⑦ 事故発生時や非常災害時の対応などが適切であったか。	
[評価の理由、要因・原因分析] ・ <u>通常に管理運営業務に加え、指定管理期間の初年度として特に各種運営マニュアルを整備したこと、太陽の丘を中心として安全対策を強化したことを総合的に判断し、自己評価レベルは「5」とした。</u> ①個人情報保護 ・ 情報セキュリティに関する定期的な研修（e-learning）を実施している。 ・ 雇用契約等の個人情報は管理者権限を有するスタッフのみ閲覧可としている。紙媒体の個人情報は鍵付きロッカーに保管している。団体利用者、イベント・講座参加者の個人情報は適切に管理している。 ②平等利用 ・ 各ゲートにおいて車いす、ベビーカーを貸し出している。 ・ 電話問い合わせの際は身障者駐車場、スロープの場所等を案内している。障害者団体の飲食スペースとして講習室や会議室を提供している。 ・ 水遊びイベントでは乳幼児も利用できるプールを設置するなど平等利用に配慮している。 ・ 講座申込みは原則、抽選制を採用している。 ・ いつでもだれでも大芝生広場を利用できるようイベント等の利用に際しては関係課と適宜調整している。 ・ 車いすの利用者に障害となるモノ等がある場合はすみやかに除却している。子供からお年寄り、車いすでも花壇に近寄れ、鑑賞できるような場所を必ず設け、平等利用ができるよう努めている。 ・ ポニー広場では、障害者も乗馬体験できるよう別枠を設けるなど平等利用に配慮している。熱帯生態園では車いす、障害者が入場できるよう配慮している。カンガルー広場では、車椅子の利用者がふれあい体験ができるよう配慮している。 ④収支の適切性 ・ イベント・講座等は事前相談や自主事業申請を通じて、指定管理業務と自主事業の会計を明確に区分している。 ・ 市が実施した監査の結果、会計等に関する指摘事項はない。 ⑤事故防止・安全対策 ・ 各ゲートにおいて火器を含む持ち込み禁止物の案内、確認を適宜実施している。 ・ <u>子どもの遊び場の安全確保のため、マニュアルに基づき、巡回・監視を実施（入園者数5,000人以上見込みの場合）。2月以降（休日）は、市の要請を受け、太陽の丘の研</u>	

- ぎ出しすべり台を対象にスタッフを配置し、利用指導、安全対策を実施している（ヘルメット着用、一人ずつ利用）。
- ・熱中症対策の義務化を踏まえガイドラインを作成、朝礼で暑さ指数、警戒情報等を周知した。また、特別警戒アラート発表時のガイドラインを作成。来園者に対してはゲートにおけるアラート掲示、園内放送による注意喚起を実施した。
 - ・熱中症対策マニュアルに基づき、夏の水遊びイベントスタッフには帽子、水等を支給し、運営現場にはスタッフ用に日よけテントを設置した。
 - ・サル出没時の報告等を適時実施した。来年度からの運用に向け対応マニュアル案を作成した。セアカゴケグモ、ハチ等の危険生物発生時は除去、注意喚起表示など速やかに対応した。
 - ・施設・遊具利用時の怪我人や体調不良者等が発生した場合は、事故発生時の対応マニュアルに基づき救急要請・搬送等を適切に実施。代表企業へのリスク報告要請等を踏まえ当該マニュアルを更新。
 - ・利用者及びスタッフの安全を確保するため、他都市の事例にも鑑み、刃物等突発的暴力事案対応マニュアルを作成、また、光化学オキシダント・PM2.5 注意喚起情報発令時対応マニュアルを作成した。
 - ・怪我人発生の例を踏まえ、夜間イベント開催時に開放する臨時駐車場にバルーン照明等を設置・強化。
 - ・ふわふわ遊具はガイドライン（基準）に基づき強風時は運休している（風速計）。
 - ・水遊びイベントのプールは水質を定期検査・記録している。
 - ・アグリズムカフェ等飲食施設では、HACCP（食品の国際的な衛生管理手法）に基づき外部機関による衛生モニタリングを実施している。
 - ・利用者の安全を確保する観点から、施設・設備の巡回は1日に2回実施している（建築物、敷地、設備の状態確認）。また、施設等の巡回経路を細分化することでより密に点検可能とし、点検の質の向上を図った。
 - ・夏季の水遊びイベント時にじゃぶじゃぶ池で頻発している足のケガを防止するため、タイル舗装材の角を削るなど対応した。
 - ・野外ステージ両サイドのゴムチップ舗装部がすべりやすいため、原因となる苔をポリッシャーで定期的に除去、清掃した。また、雨天時、雨天後はコーン・バーで立ち入り禁止措置を講じた。
 - ・バラ園では特に園路の伸びすぎた枝のとげ等で怪我が発生しないよう常に巡回・管理を行っている。生態園や緑地でも花壇沿いの足元の安全性を確保するため、巡回等で危険箇所の早期発見・修繕を行っている。
 - ・老朽化が進行している園内全域を対象に、段差等で躓かないよう当JV関係課と協力して危険箇所の共有、修繕を行った。
 - ・ポニー広場では、マニュアルに基づき朝に馬の運動を行ったうえで乗馬及びポニー馬車に使用している。
 - ・熱帯生態園では、毎日、危険箇所等の有無や動物の展示可否を巡回・確認し、安全を確認のうえで運営。
 - ・カンガルー広場では、常点検実施により破損箇所を速やかに修繕している（ふれあい

広場柵、ワラビー放飼場クラック)。また、安全管理者講習を受講するとともに、スタッフ間で危険予測ミーティングを実施し、危険が予測される場合の対策を検討した。

⑥防犯・防災対策

- ・各ゲートに防犯蛍光カラーボールを設置し、有事に備えている。
- ・食イベント時の盗難事件を踏まえ、出店者朝礼で売上・釣銭の扱いについて注意喚起している。また、みつばちフリマ開催時には警察に巡回を要請した。
- ・警備においては、日勤と夜勤の引継ぎの際に気づき等はすべて情報共有している。

⑦事故・災害時の対応

- ・集中豪雨時に退園できない入園者を駐車場へ車両搬送した。
- ・施設・遊具利用時に怪我等が発生した場合、救急要請から搬送、保険対応などに対応している。
- ・消防設備の場所を周知し、即時対応できるよう指導した。
- ・近年、夏場はスズメバチの発生が多く、秋にかけても目撃されることから、維持管理スタッフも日常の管理で危険な場面が多いため、万一の際の殺虫剤や、救急道具、刺された際のマニュアルなども説明し、継続的に指導・教育を行っている。
- ・熱中症も同様にマニュアル説明を行い、万一の事故の際をシミュレーションし、定期的に教育を行っている。
- ・ポニー広場では、落馬事故に基づき作成したマニュアルに基づき、事故発生時の対応をとることを周知、指導している。具体的には、ロールプレイング等を行い、事故の際に瞬時に対応できるようにした。
- ・カンガルー広場では、新たに作成した熱中症対策マニュアルに基づきカンガルー広場の運用方法を作成し、周知した。また、動物脱走時対応マニュアルを作成し、関係者へ周知した。

【総合評価】

[全体的な評価・今後の対応等]

- ・令和7年度入園者数は、前年度比でマイナス約1.6万人減の450,554人となり、要求水準及び目標値は達成することができなかった。10～2月に工事で使用できなかった野外ステージを利用できていれば要求水準は達成できた可能性はある（改修工事後の3月に急遽3週連続でステージイベントを開催した結果、入園者数は前年同月比で約1万人増の実績）。
- ・熱帯生態園やカンガルー広場の有料施設の入場者数は前年度を約7千人超上回り、利用料金収入は前年度とほぼ同額を維持することができた。自主事業収入は、夜間イベント開園時の入園料徴収（但し、中学生以下は無料）、当JVの自己投資で整備・運営した巨大立体迷路の増収等により、前年度を大きく上回った。
- ・指定管理期間の初年度として、通常の運営、維持管理業務に加え、提案書に記載した以下のような事項にも取り組み、前指定管理期間にも増して利用者満足度の向上に努めた。
 - －気象条件や利用者ニーズ、スタッフの働き方改革等を考慮した開園時間の変更（夏の延長開園、冬の時短開園）、夜間入園料徴収のための料金徴収の仕組みの整備
 - －冬季の集客を確保するための12月無料開園日の導入、多様なイベントの開催

- －当園の新しい方向性である「若松北海岸エリアの活性化」を目的とした多様なイベント等の開催、これらイベント開催に際してのエリア内事業者、団体等との連携、協働
- －熱帯生態園への新しい動物の導入、ポニー広場及びカンガルー広場における新たなイベントの開催、動物3施設の連携によるイベントの開催
- －植物の見せ方、花壇デザインの工夫、新しい植物の植栽、新規花壇（桜植栽含む）の整備、バラ園における種数株数増（目標達成）
- －子どもの遊び場の利用指導マニュアルの作成とスタッフによる利用指導（2月以降は全休日にスタッフを配置し、利用指導及び注意喚起）、怪我等への適切な対応（怪我本人への対応、怪我した場所への措置、その他予防措置など）
- －多様な媒体を用いた広報活動に加え、市の複数の事業に積極的に参加、協力 等
- ・ 今後は、入園者数の要求水準及び目標値の達成のためには、通常は多客月である5月、9月（大型連休）、10月の集客回復が不可欠であり、既往施設・遊具の効果的な広報を強化しつつ、提案書に記載したイベントをはじめ集客力の高いイベント、大型・ロングランイベント等を開催していく。
- ・ 本年度よりスタートした新しい取り組みについても利用者ニーズを反映してブラッシュアップし、さらなる集客、収益につなげていく。
- ・ こうした取り組みは利用者の安全確保を大前提とするものであり、市と情報を共有しながら遊具等における利用指導や注意喚起、園内全体における怪我等の未然防止、怪我等発生時の応急措置などに万全を期すものとする。

【評価レベル】

評価レベル		評価レベルの考え方
5	良 い	要求水準・目標・計画を大幅に上回り、特に優れた管理運営をおこなった
4		要求水準・目標・計画を上回り、優れた管理運営をおこなった
3	普 通	要求水準・目標・計画を満たしており、適正に管理運営をおこなった
2		要求水準・目標・計画を下回り、課題の残る管理運営となった
1		要求水準・目標・計画を大幅に下回り、大いに課題の残る管理運営となった
0	適切でない	不適切な管理運営となった

※この様式は外部にも公表する資料となります。